

令和七年度 入学式 式辞

穴水湾の内海が朝日を浴びて穏やかな表情を見せ、登校坂に春の香りが満ちあふれた今日の良き日、穴水町長 吉村光輝様をはじめ、多くの来賓の皆様にご臨席いただき、令和七年度石川県立穴水高等学校「入学式」を挙行できますことは、この上ない喜びです。

保護者の皆様には、本日、このようにたくましく成長されたお子様の姿に、さぞや感慨深いものがあろうかと存じます。

先ほど、入学を許可いたしました、第79期生、30名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。穴水高校を代表し、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

震災から1年3カ月が経過しました。皆さんのが中学2年生の元旦に能登半島地震が起きたわけですから、皆さんの中学校最後の学年は、震災からの復旧・復興とともに歩んできた1年でした。避難所生活を経験した生徒、自宅が住めなくなってしまった生徒など、それぞれが多くの試練を乗り越えて今この場に立っています。今日の日を迎えることができたのは、皆さんの努力の成果であることは言うまでもありませんが、県内外から多くの支援をいただいたことに感謝の気持ちを忘れてはいけません。そして、これまで皆さんを、時には優しく見守り、時には厳しく指導してくださった、家族や、小学校、中学校の先生方など、多くの方々に支えられ、皆さんは立派に成長することができました。

本校は奥能登の重要な地に位置し、奥能登の学びの府として数多くの卒業生を輩出してきました。「勤勉・良識・心身鍛錬」を校訓に、来年度創立80周年を迎えます。今日から穴水高校生としての誇りと自信を持って高校生活をスタートしてください。

さて本校の現状ですが、校舎・体育館・グラウンド等、ハード面の復旧はほとんど進んでいません。

皆さんのが入学してからの学習や部活動において、「環境さえ整えばもっと勉強できるのに。こんな環境じゃ記録も出せないし、勝てるわけない」など、できない理由を考えないでください。

「やる前から難しいなんて勝手に決めない。できない理由を考えるのではなく、どうすればできるかを考える」ということを、高校生活の目標の一つにしてください。

「これはできない」と弱音を吐くのではなく、「こうすればできる」と考えることで、すぐにはできないことがあっても、1歩ずつ前に進むことができます。

皆さんの後ろにいる先輩方は、この環境への不満を口にすることなく、元気に前を向いて高校生活を送っています。是非、新入生の皆さんも、変えることのできる「将来」に向か、一生懸命、後悔なく高校生活を送ってください。

結びになりますが、保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。本校は、今日から30名の新入生の皆さんをお預かりします。これから三年間、教職員一同、皆様とともに子どもたちとその未来のために、力を尽くしていくことをお約束し、式辞といたします。

令和7年4月8日（火）
石川県立穴水高等学校
校長 島崎 康一